

第4回「てつがくカフェ Plus」を開催します！

「〈謝る〉って何？」

『それでも、生きてゆく』というドラマを見ていました。

少女殺人事件の被害者家族と加害者家族との交流を描いたドラマです。その中で気になるシーンがありました。15年の歳月を経て、加害者家族がはじめて被害者家族のもとを訪れるシーンです。このとき彼らは頭を下げ、「申し訳ありませんでした」と謝ります。しかし殺された少女の母親は怒り狂ってこう言いました。

「そういうことじゃなくて！」

・・・ふつう被害者（家族）は〈謝罪〉を要求し、また加害者（家族）に要求されるのは〈謝罪〉をすることではないでしょうか。確かに〈謝罪〉によって死んだ人が蘇るわけでもなければ、過去の過ちが清算されるわけでもありません。

しかし確かに私たちは、ある場合に誰かに対し〈謝罪〉を要求するのはもっともなことだと思いますし、またある場合には自分から〈謝罪〉を申し入れることがまっとうなことだと考えます。だからこそ加害者家族は「謝ったってしょうがない」という言い訳を乗り越えて、頭を下げに来たのかもしれませんが。では、なぜ母親は「そういうことじゃなくて！」と叫んだのでしょうか。もちろん金銭を要求しているわけでもありませんでしたし、被害者の家族と何も話したく無かったわけでもないように見えました。母親はとにかく、自分が〈謝罪〉という事で加害者に求めていたのはそういうことではないと言いたかったのです。

2011年の後半に放映されたこのドラマには、主人公がある何気ない会話のなかで「そういえば地震のときどうしてた？」という台詞を発する場面があります。これによって脚本家は物語に、〈震災以後〉の刻印を押しているのだと考えられます。

そういえば震災のあと、〈謝罪〉を要求される人たちがたくさんいました。〈謝罪〉を要求する人たちはそれ以上にたくさんいたように思います。そんな時期に放映されたあのドラマのワンシーンは、わたしたちが抱く〈謝罪〉についての素朴な考えを揺さぶります。頭を下げ、「申し訳ない」と言うこと、これが「そういうことじゃない」としたら、ではどういうことが〈謝罪〉であるのでしょうか。

〈謝罪〉ということは、何も原発事故や殺人事件の加害者にのみかかわる話でもありません。ふつうの日常を送っている人々でさえ、〈謝罪〉を迫られたり、迫ったり、自らそれを望んだりします。しかしそんなとき、私たちは本当に謝罪をすることができるのでしょうか。あるいはそもそも、謝罪をするとは、「謝る」とはいったい何をしているのでしょうか。あれほど多くの人々が要求し・要求された〈謝罪〉ですが、その実私たちは〈謝罪〉ということについて十分な理解を得ていると言えるのでしょうか。

立ち止まって、「謝る」ということについて考え直してみてもはどうでしょう。

■ 第4回「てつがくカフェ Plus」 ■

テーマ：「〈謝る〉って何？」

日時：2013年4月19日（金曜日）19:00～21:00

場所：仙台市市民活動サポートセンター3階 研修室1

ファシリテーター：綿引周（てつがくカフェ@せんだい）

参加費：無料

事前申込み：不要（直接会場にお越しください）

問い合わせ先：E-mail tanishi@hss.tbgu.ac.jp（西村まで）

てつがくカフェ@せんだい HP：

<http://tetsugaku.masa-mune.jp/>

■ 「てつがくカフェ Plus」とは ■

通常のとつがくカフェを行いながら、対話の進め方やテーマの絞り方、さらにはファシリテーション・グラフィックの書き方などを参加者どうしで同時進行的に問い直す、メタ・ダイアログをプラス（plus）したトレーニング型の「てつがくカフェ」です。

■お知らせ■

（3.11以降）読書会「震災を読み解くために」始動します！
まずは、ジャン＝リュック・ナンシー著『フクシマの後で：破局・技術・民主主義』を読みすすめていきます。みなさんと（読みの力）を共有したいと考えています。興味のある方は是非、ご連絡ください。